

金沢大学大学院人間社会環境研究科後期課程

進学・入学試験問題

【外国語】

1. 英語

- ・平成 21 年度(2009 年度) 4 月期

以下の英文抜粋を読み、全文を日本語に訳しなさい。

出典 : Daniel J. Boorstin, *The Americans: The national experience*, Vintage Books, 1965.
259 頁の 3 行目から 260 頁の 2 行目まで。

- ・平成 20 年度(2008 年度)4 月期

以下の英文を読み、全文を日本語に訳しなさい。

出典 : Clifford Guy, *The Retail Development Process: Location, Property and Planning*.
Routledge, 1994. 1 頁のすべて (1 行目から 12 行目と Table 1-1)、2 頁のすべて (1 行目
から 44 行目)、3 頁の 1 行目から 4 行目まで。

- ・平成 19 年度(2007 年度) 4 月期

以下の英文を読み、全文を日本語に訳しなさい

出典 : Frederick Copleston, *A History of Philosophy*, Vol. 1 (rev. ed. 1947), Burns & Oates,
8 頁の 10 行目から 9 頁の 7 行目まで。

- ・平成 18 年度(2006 年度) 10 月期

以下の英文は、江戸時代中期に大阪で活躍した小説家上田秋成の伝記の一部です。全文
を日本語にしなさい。

出典 : Young, Blake Morgan. "The Final Years." In *Ueda Akinari*, University of British
Columbia Press, 1982. 「3. Kashima-Mura」の最初から第 4 段落まで。

- ・平成 18 年度(2006 年度) (2 次)

次の英文は、東南アジアにおけるえび養殖の問題を論じたものです。これを読み、全文
を日本語にしなさい。

出典 : The Worldwatch Institute, *State of the World 2004: A Worldwatch Institute Report*

on Progress Toward a Sustainable Society, W. W. Norton, 2004. 93 頁の 8 行目から 51 行目まで。(一部改変：第 3 段落の 5～6 行目＝9 3 頁、通算では 21～22 行目の括弧内の記述を省略)

・平成 18 年度(2006 年度)

英文 I と II の枠で囲まれた部分、(a)、(b)、(c) の 3 箇所を日本語に訳しなさい。

英文 I の出典：Levine, Lawrence W., “The Opening of American Mind”, の第 3 部を大井浩二が編集した” *Cultural Identity in American History: Theory and Experience*”, Eihosya, 2005、7 頁 1 行目 From から 8 頁 2 7 行目 Literature まで。

(a) 7 頁 1 4 行目 Almost から 8 頁 7 行目 world まで。

(b) 8 頁の 1 3 行目 Here から 1 9 行目 forged まで。

英文 II の出典：Nisbett, Richard E., ” The Geography of Thought” , Nicholas Brealy Publishing, 2003、x vii 頁の 5 行目 I began から段落の終わりまで。

(c) x vii 頁の 1 5 行目 For から段落の終わりまで。

2. 中国語

・平成 21 年度(19 年度)

【問 1】次の文章を日本語に訳しなさい。固有名詞だと判断した語句はそのまま日本漢字に書きなおすか、発音をカタカナ書きにしなさい。専門分野の術語と判断した語句についても同様に処理してよい。特殊な名詞を判別することも重要な翻訳技術の一つです。

出典：孫機『漢代物質文化資料図説』文物出版社、1991 年。267 頁 12 行目から 269 頁 8 行目まで。(268 頁の図は除く。)

【問 2】次の文章を日本語に訳しなさい。許容範囲の意識は減点対象としないが、イディオムや決まり文句については、できるだけ文法に忠実に訳せるよう心がけなさい。

出典：劉兆和主編『草原宝蔵』内蒙古大学出版社、2005 年。55 頁第 1 段落、56 頁の第 1 段落、第 2 段落。

・平成 20 年度(2008 年度)4 月期

【問】次の問題文は、呉長安「語境的範圍及其在語法分析中的作用」『語言学通訊』1989 年からの抜粋である。日本語に訳しなさい。

・平成 19 年度(2007 年度)4 月期

【問 1】次の文章は『以同実異-漢語近義表達方式的認知語用分析』中国社会科学院、2002

年から抜粋したものである。次の問いに答えなさい。

【1-1】文中の例文のうち、〈要〉が使えないとされた3例73, 78, 79、と〈会〉が使えないとされた7例77, 80, 81, 82, 83, 84, 85、合わせて10例を日本語に訳しなさい。

【1-2】それぞれ例文について、〈要〉または〈会〉が使えない理由を要約しなさい。

注：日本語訳はできるだけ、中国語の構文の違いを反映するものにしなさい。

使えない理由が同じ場合、○番と○番は同様の理由、としなさい。

【問2】次の文章は『80年代文学新潮叢書：紀実小説選萃』北京師範大学出版社1989から抜粋したものである（《信從彼岸来—一個中国留学生的留美札記》）。日本語訳しなさい。

注：私の名前はWYJ、女性の名前はWYSと略してよい。

欧米の人名は漢字で表記する場合の慣例を勘案して、カタカナで書きなさい。

出題意図は速読の力をはかることにあるので、できるだけ多く日本語訳すること。